

## 【令和2年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

## 地方独立行政法人岐阜県立多治見病院

項目 No.	R2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証(案)										
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点(●)</li> </ul>	自己評価											
01	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新中央診療棟整備に向けて策定した整備計画に基づき、MRI、CTなど大型医療機器のほか、特に老朽化が激しい機器について計画的に整備を行う。</li> </ul> <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員修学資金貸付などの支援制度を継続実施する。</li> <li>・ガイダンスへの参加、学校訪問等を積極的に行うとともに、インターネットや新聞などの広報媒体を活用し、職員の募集活動を実施する。</li> <li>・定年を向かえた医師、看護師等のうち、病院経営に寄与すると認められる職員の再雇用を実施する。</li> <li>・大学医局との連携や代務医の招聘などにより、引き続き医師確保に努める。</li> <li>・医師や看護師の業務負担軽減を推進するため、引き続き医師事務作業補助者、看護助手、</li> </ul>	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新中央診療棟の開院に向けた医療機器の整備について、各部門における医療機器の配備状況及び要望に基づいて整備計画を策定しており、各部門へヒアリングを実施し、導入時期、導入手法等も含めたより具体的な計画に適時更新を行った。</li> <li>・令和2年度は、高度医療機器のうち特に老朽化が激しく診療に支障をきたす医療機器を中心に整備を行った。</li> </ul> <p>【更新・整備した主な機器】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>整備目的・用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汎用血管用エックス線撮影装置</td> <td>機器老朽化による更新。血管造影撮影により、診断および治療を行う。</td> </tr> <tr> <td>デジタルガンマカメラシステム</td> <td>機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。</td> </tr> <tr> <td>X線CT撮影装置</td> <td>診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。</td> </tr> <tr> <td>ラボリモートユニット</td> <td>機器老朽化による更新。不整脈の診断・治療に使用する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学医局との連携や代務医の招聘、医師の斡旋会社の活用により、必要な医師の確保に努めた。看護師とその他のコメディカルについては、ガイダンスでの募集活動、学校訪問、地元紙・地域情報誌への求人広告掲載、ホームページでの募集活動、インターネットの求人サイトの活用、就職準備資金等の支援制度により、医療従事者の充実を行った。</li> </ul>	機器名	整備目的・用途	汎用血管用エックス線撮影装置	機器老朽化による更新。血管造影撮影により、診断および治療を行う。	デジタルガンマカメラシステム	機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。	X線CT撮影装置	診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。	ラボリモートユニット	機器老朽化による更新。不整脈の診断・治療に使用する。	IV	<p>医師・看護師・コメディカルともに充実しており、今後の活躍に期待したい。専門・認定看護師も増加しており、評価できる。</p> <p>高度機器整備、医療従事者の確保、ICT、AIの活用(多治見シャトル)について評価できる。</p>
機器名	整備目的・用途													
汎用血管用エックス線撮影装置	機器老朽化による更新。血管造影撮影により、診断および治療を行う。													
デジタルガンマカメラシステム	機器老朽化による更新。放射性医薬品を用いた画像診断装置で機能・形態画像を診断に提供する。													
X線CT撮影装置	診療機能充実のため増設。CT画像を診断に提供する。													
ラボリモートユニット	機器老朽化による更新。不整脈の診断・治療に使用する。													

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																																																																				
	<p>介護福祉士などの確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と家庭を両立させるため、育児部分休業の活用の推進や、院内保育施設での夜間保育・休日保育・病児保育を引き続き実施するとともに、職員のニーズに対応できる体制の維持に努める。</li> </ul> <p>4 特定行為看護師、専門看護師等の資格取得の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師教育課程への派遣にあたっては、新たな認定看護師制度にもとづく「特定行為研修を含む研修」を実施している教育機関への派遣を優先させる。</li> <li>・「慢性心不全看護認定看護師教育課程」「放射線看護認定看護師教育課程」へ各1名派遣する。その他の認定看護師においても、新たな認定看護師制度への移行を促す。</li> <li>・救急看護認定看護師1名をクリティカル領域の特定行為研修へ派遣する。</li> </ul> <p>5 コメディカルに対する専門研修の実施</p> <p>最新の高度医療に対応できる技術・知識を有する職員を養成するため、引き続き国、岐阜県等が主催する講習会、研修会への参加や各種認定資格の取得、維持のための支援を行う。</p> <p>7 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関と情報共有するための「ぎふ清流ネット」を継続活用するとともに、当院独自のシステム構築に向けた検討を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医について、非常勤から常勤へ勤務形態を切り替えることにより、待遇を改善し、医師の確保を図った。</li> <li>・初期研修医のマッチングについては、医師12人、歯科医師1人の募集枠をフルマッチングすることができた他、医療事務作業補助者、看護助手、介護福祉士などの採用を図り、医師や看護師の業務負担の軽減を推進した。</li> </ul> <p>【医療従事者数】 単位：人 (各年度末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>118</td> <td>123</td> <td>126</td> <td>136</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>看護師・助産師</td> <td>474</td> <td>472</td> <td>484</td> <td>476</td> <td>490</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>154</td> <td>167</td> <td>173</td> <td>185</td> <td>199</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 特定行為看護師、認定看護師等の資格取得の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の高い看護師を養成するため、認定看護師等長期研修計画に基づき、必要な研修への参加を支援した。</li> <li>・特定行為区分研修は看護師4名が参加し、特定行為研修を含む研修には、「慢性心不全看護認定看護師」「放射線看護認定看護師」へ各1名が参加している。</li> <li>・「糖尿病看護認定看護師」と「がん化学療法認定看護師」各1名、並びに「がん専門看護師」1名が認定試験に合格し認定・専門資格を取得した。</li> </ul> <p>【認定看護師・専門看護師数】 単位：人 (各年度末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分野</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">認定</td> <td>皮膚・排泄ケア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>集中ケア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>がん性疼痛看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>新生児集中ケア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂食・嚥下障害看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>救急看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>慢性心不全看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>脳卒中リハビリテーション看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医師	118	123	126	136	151	看護師・助産師	474	472	484	476	490	コメディカル	154	167	173	185	199	区分	分野	H28	H29	H30	R1	R2	認定	皮膚・排泄ケア	2	2	3	3	3	集中ケア	2	2	2	2	2	緩和ケア	1	1	1	1	1	がん化学療法看護	1	1	2	2	3	がん性疼痛看護	1	1	1	1	1	感染管理	3	3	2	2	2	新生児集中ケア	1	1	1	1	1	摂食・嚥下障害看護	1	1	1	1	1	救急看護	1	1	1	1	1	慢性心不全看護	1	1	1	1	1	脳卒中リハビリテーション看護	1	1	1	1	1		
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																	
医師	118	123	126	136	151																																																																																																	
看護師・助産師	474	472	484	476	490																																																																																																	
コメディカル	154	167	173	185	199																																																																																																	
区分	分野	H28	H29	H30	R1	R2																																																																																																
認定	皮膚・排泄ケア	2	2	3	3	3																																																																																																
	集中ケア	2	2	2	2	2																																																																																																
	緩和ケア	1	1	1	1	1																																																																																																
	がん化学療法看護	1	1	2	2	3																																																																																																
	がん性疼痛看護	1	1	1	1	1																																																																																																
	感染管理	3	3	2	2	2																																																																																																
	新生児集中ケア	1	1	1	1	1																																																																																																
	摂食・嚥下障害看護	1	1	1	1	1																																																																																																
	救急看護	1	1	1	1	1																																																																																																
	慢性心不全看護	1	1	1	1	1																																																																																																
	脳卒中リハビリテーション看護	1	1	1	1	1																																																																																																

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ会議システムを有効活用し、他の医療機関との情報の共有を図るとともに、医療連携体制強化を進める。</li> <li>・画像診断等でのAIの活用に向けて、診療科等と共同して情報収集を行う等の検討を進める。また、AI問診システムを試行的に導入し、待ち時間の軽減や医師による診察時間の改善等を目指す。</li> </ul>		糖尿病看護	1	1	1	1	2							
		認知症看護	1	1	1	1	1							
		訪問看護	1	1	1	1	1							
		手術看護	—	—	1	1	1							
		透析看護	—	—	1	1	1							
		小 計	18	18	21	21	23							
	専門	がん看護	3	2	2	2	3							
		急性・救急看護	1	1	1	1	1							
		認定看護管理者	1	1	1	1	1							
	<p>5 コメディカルに対する専門研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の高度医療に対応できる技術・知識のある職員を養成するため、学会、研修会等への参加や各種認定資格の取得、維持のため支援を行った。</li> </ul> <p>【資格取得・認定及び学会研修会等の参加状況】</p>													
				資格取得・認定件数(件)			学会研修会等 延べ参加者数(人)							
		職種	H28	H29	H30	R1	R2		区分	H28	H29	H30	R1	R2
		薬剤師	1	1	3	8	6		参加	47	64	64	70	42
	発表								9	8	9	5	2	
		放射線技師	2	7	6	6	3		参加	398	312	314	251	213
発表	33							25	20	19	5			
	臨床検査技師	15	9	9	7	2	参加	26	33	42	38	9		
発表							2	2	2	4	0			
	臨床工学技士	1	4	1	3	4	参加	22	26	25	16	6		
発表							6	7	3	1	0			
	リハビリ技士	4	2	3	19	20	参加	38	12	60	90	19		
発表							1	4	4	8	0			
	管理栄養士	0	2	2	2	0	参加	9	4	10	12	1		
発表							1	1	1	1	0			

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価											自己 評価	評価委員会の検証（案）																		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																														
		合計	23	25	24	45	35	参加 発表	540 52	451 47	515 39	477 38	290 7																			
		<p>7 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎふ清流ネット」は継続使用するとともに、当院独自のシステムの構築に向け、地元医師会などとの調整を行った。</li> <li>・Web会議システムを、入退院支援、様々な連携会議、各種学会、委託業者や地域調剤薬局との会議等の他、院内の会議、委員会、病棟会等で広く活用した。</li> <li>・AI画像診断の導入については、経費面に加え、異常があった場合の通知方法など電子カルテシステムやPACS（医療用画像管理システム）との連携についても、課題が明らかとなったため、さらに検討をしていく。また、AI問診システムについては、導入に向けた環境を整備した。</li> </ul>																														
02	<p>1 待ち時間の改善等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者待ち時間調査を実施し、現状分析による改善策を立案する。</li> <li>・連携予約検査枠の適宜見直しとともに、開業医への訪問活動、効果的な広報等の実施により、紹介患者数及び高度医療機器利用率の向上を図る。</li> <li>・患者の待ち時間の改善のため、外来患者呼出システムについて、院内の運用検討を進める。</li> <li>・生理検査の呼出ベルシステムの試行的に運用するとともに、利用状況等により利用拡大について検討を進める。</li> <li>・千年カルテにより患者個人が処方箋や検査結果の参照ができるシステムの利用拡充を図る。</li> <li>・よろず相談、かかりつけ医紹介センターの利用を促進し、逆紹介を推進する。</li> </ul> <p>2 院内環境の快適性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した空調配管等の改修工事について、</li> </ul>	<p>1 待ち時間の改善等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携センターによる開業医への訪問活動に、診療科の医師も同行し紹介患者獲得及び高度医療機器利用率の向上を図った（48件）。</li> <li>・生理検査の呼出ベルの他、外来各科にはQRコードを読み取ることで、個人のスマートフォンに呼出メールが届く、「メール呼出システム」を構築した。</li> <li>・当院が参画する「千年カルテプロジェクト（全国共同利用型国際標準化健康・医療情報の収集及び利活用に関する研究事業）」は、主体的に運営する法人にて、引き続き開発を進めている。</li> <li>・待ち時間調査は、現行の電子カルテシステムが対応できておらず、令和2年度の実施を見送った。</li> </ul> <p>【平均待ち時間】 単位：分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>17</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※待ち時間は病院全体の時間</p> <p>【CT、MRI検査件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT件数</td> <td>29,516</td> <td>32,872</td> <td>34,511</td> <td>33,727</td> <td>31,307</td> </tr> <tr> <td>MRI件数</td> <td>9,833</td> <td>10,208</td> <td>10,766</td> <td>10,759</td> <td>9,677</td> </tr> </tbody> </table>	H28	H29	H30	R1	R2		17	21	12	—	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	CT件数	29,516	32,872	34,511	33,727	31,307	MRI件数	9,833	10,208	10,766	10,759	9,677	IV	メール呼出システム、低栄養患者への介入、医療相談件数の増加について評価できる。
H28	H29	H30	R1	R2																												
	17	21	12	—																												
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																											
CT件数	29,516	32,872	34,511	33,727	31,307																											
MRI件数	9,833	10,208	10,766	10,759	9,677																											

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				自己 評価	評価委員会の検証（案）																																													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																		
	<p>新中央診療棟整備を見据え計画的に実施し、快適な院内環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者からの施設に係る意見、要望について、適切な対応を行う。</li> <li>・病院給食の改善を図り、治療効果を高めるため病態に配慮しながら、イベントメニューの実施、メニューの見直し等を行う。</li> <li>・化学療法の副作用や機能低下などで喫食量が低下した患者へ、早期に介入し喫食量増加を目指す。特別食・がん・低栄養・嚥下食喫食者の栄養指導も含め、栄養管理を継続的に行っていく。</li> </ul> <p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報に関する相談に柔軟に対応するため、引き続き地域医療連携センター内の医療連携担当と医療相談担当と医療安全部が、患者サポートカンファレンスを定期的を開催し、相互の情報共有と問題点の洗い出しを行う。必要に応じて改善に向けて、院内の各部門へ問題提起を行っていく。</li> <li>・入退院支援センターで、入院決定から退院まで切れ目なく入院患者や家族への相談に対応し、患者が安心して治療に専念できるよう支援を行う。</li> <li>・患者やその家族からの医療に関する様々な相談に対し、よろず相談・かかりつけ医紹介センターを活用して、迅速に対応する。</li> <li>・東濃情報交換会に継続して参加をしていくとともに、この交換会で得られた情報を職場内で共有し患者や家族の退院調整・医療相談に活用する。</li> </ul>	<p><b>【手術件数】</b> 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術室</td> <td>4,814</td> <td>4,933</td> <td>4,799</td> <td>4,857</td> <td>4,185</td> </tr> <tr> <td>中放内視鏡</td> <td>2,471</td> <td>2,778</td> <td>2,858</td> <td>2,912</td> <td>2,907</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,284</td> <td>7,711</td> <td>7,657</td> <td>7,769</td> <td>7,092</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 院内環境の快適性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟において、長期間使用しているエアコンの分解・清掃、古くなった床やクロスの貼替、汚れたブラインドやカーテンの交換などを行った。</li> <li>・患者からの施設に係る意見、要望等は、施設管理、清掃などの委託業務に関連するものも多く、委託業者も含めて情報を展開し改善を図るとともに、患者へフィードバックした。</li> <li>・毎食の残食調査、隔月（年間6回）の嗜好調査で患者の満足度等の調査を実施。医師・管理栄養士や看護師・事務の栄養管理委員による検食結果と合わせて給食委託会社と献立や食材の見直しを行い、患者給食の向上を図った。</li> <li>・喫食量の低下した患者や低栄養の患者への早期の介入による低栄養の改善、また、特別食・がん・低栄養・嚥下食患者への栄養指導を行った。</li> <li>・低栄養患者に対して、NST（栄養サポートチーム）が介入し多職種協働で早期改善を図った。</li> </ul> <p><b>【喫食量の低下・低栄養患者への取り組み】</b> 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養指導</td> <td>5,164</td> <td>5,113</td> <td>4,173</td> <td>4,585</td> <td>5,317</td> </tr> <tr> <td>栄養管理</td> <td>1,044</td> <td>2,140</td> <td>3,009</td> <td>5,700</td> <td>7,439</td> </tr> <tr> <td>NST介入</td> <td>430</td> <td>442</td> <td>488</td> <td>555</td> <td>696</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず相談の内容により必要と判断した場合には、患者サポート体制カンファレンスでの対応に繋げた。患者サポートカンファレンスは、毎週1回開催し、情報収集や問題点等の洗い出し、改善に向けて関係部署や本人への働きかけを行った。取り扱った症例数は199件。</li> <li>・入院決定から退院まで、患者の状況に応じて相談に対応し、手術予定の患者を中心</li> </ul>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	手術室	4,814	4,933	4,799	4,857	4,185	中放内視鏡	2,471	2,778	2,858	2,912	2,907	合計	7,284	7,711	7,657	7,769	7,092	項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	栄養指導	5,164	5,113	4,173	4,585	5,317	栄養管理	1,044	2,140	3,009	5,700	7,439	NST介入	430	442	488	555	696		
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																															
手術室	4,814	4,933	4,799	4,857	4,185																																															
中放内視鏡	2,471	2,778	2,858	2,912	2,907																																															
合計	7,284	7,711	7,657	7,769	7,092																																															
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																															
栄養指導	5,164	5,113	4,173	4,585	5,317																																															
栄養管理	1,044	2,140	3,009	5,700	7,439																																															
NST介入	430	442	488	555	696																																															

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターを中心に、がん患者やその家族等の相談者に寄り添い、柔軟に対応していく。</li> <li>・がん患者サロンを活用し、がん患者及びその家族に対し相談を行うとともに、がん患者サロンの対応者であるピアサポーターの育成研修を継続し、対応者のフォロー研修を開催し、質の向上に努める。</li> </ul>	<p>に入院前から対応した（247件）。また、医師から患者へ説明が行われるときは、医療相談課職員が同席するよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんサロンは、新型コロナウイルス感染拡大により、開場日が限られたため、来訪者は減少したが、がん相談に関わるスタッフ間の情報共有や検討を積極的に行った。</li> <li>・東濃情報交換会およびピアサポーター育成研修・フォロー研修は、新型コロナウイルス感染拡大ため開催を見送った。</li> </ul> <p>【よろず相談・かかりつけ医紹介件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かかりつけ医への紹介</td> <td>322</td> <td>423</td> <td>517</td> <td>509</td> <td>414</td> </tr> <tr> <td>よろず相談</td> <td>1,129</td> <td>1,434</td> <td>1,804</td> <td>2,214</td> <td>2,432</td> </tr> </tbody> </table> <p>【医療相談件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療相談件数</td> <td>14,597</td> <td>15,969</td> <td>17,605</td> <td>20,450</td> <td>21,347</td> </tr> <tr> <td>がん患者サロン（ほつとサロン）相談件数</td> <td>55</td> <td>58</td> <td>228</td> <td>192</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>【カルテ開示請求件数・開示件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td> <td>57</td> <td>61</td> <td>48</td> <td>34</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>42</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>34</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>					項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	かかりつけ医への紹介	322	423	517	509	414	よろず相談	1,129	1,434	1,804	2,214	2,432	項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医療相談件数	14,597	15,969	17,605	20,450	21,347	がん患者サロン（ほつとサロン）相談件数	55	58	228	192	39	項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	請求件数	57	61	48	34	28	開示件数	42	57	48	34	28		
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																									
かかりつけ医への紹介	322	423	517	509	414																																																									
よろず相談	1,129	1,434	1,804	2,214	2,432																																																									
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																									
医療相談件数	14,597	15,969	17,605	20,450	21,347																																																									
がん患者サロン（ほつとサロン）相談件数	55	58	228	192	39																																																									
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																									
請求件数	57	61	48	34	28																																																									
開示件数	42	57	48	34	28																																																									
03	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携推進協議会、東濃可児地域病病連携会議、地域連携パス合同会議等医師会や他医療機関との情報交換をとおして、患者動向や医療需要を把握し、当院の診療体制の整備・充実に努める。</li> <li>・地域の医療需要に応えるため、新たにこども発達（児童精神）専門外来を開設するなど診</li> </ul>	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携センターが中心となり、医療連携推進協議会（6月、9月、12月、3月）、東濃可児地域病病連携推進会議（4月）、地域連携パス合同会議（6月、11月、3月）、循環器病診療連携会議（9月、10月、12月、3月）を開催し、他医療機関との情報交換をとおして、患者動向や医療需要の把握に努めた。</li> <li>・地域の医療需要に対応し10月に児童精神科外来を開設。診察実績は延べ75件となった。</li> </ul>					IV	児童精神科外来開設について評価できる。																																																						

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																																										
	療体制の充実を図る。 ・医療連携センターと医事課が中心となり、院内各部門と連携しながら、患者動向やデータ分析、地域連携クリニカルパスの運用、入院初期段階からの転院・退院調整等の充実に努める。	<b>【連携予約状況】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>整形外科</td> <td>1,217</td> <td>1,213</td> <td>1,247</td> <td>1,427</td> <td>1,212</td> </tr> <tr> <td>神経内科</td> <td>880</td> <td>818</td> <td>870</td> <td>995</td> <td>752</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>1,675</td> <td>1,715</td> <td>1,922</td> <td>2,047</td> <td>1,936</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10,028</td> <td>10,732</td> <td>11,115</td> <td>11,743</td> <td>10,076</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13,800</td> <td>14,478</td> <td>15,154</td> <td>16,212</td> <td>13,976</td> </tr> </tbody> </table> <b>【訪問活動・健康づくり講座】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問活動（件）</td> <td>17</td> <td>100</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>健康づくり講座（回）</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <b>【医療連携交流会】</b> 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院外参加者数</td> <td>68</td> <td rowspan="2">中止</td> <td rowspan="2">開催自粛</td> </tr> <tr> <td>院内参加者数</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>118</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	整形外科	1,217	1,213	1,247	1,427	1,212	神経内科	880	818	870	995	752	消化器内科	1,675	1,715	1,922	2,047	1,936	その他	10,028	10,732	11,115	11,743	10,076	合計	13,800	14,478	15,154	16,212	13,976	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	訪問活動（件）	17	100	20	34	48	健康づくり講座（回）	15	20	21	17	3	区分\年度	H30	R1	R2	院外参加者数	68	中止	開催自粛	院内参加者数	50	合計	118				
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																																							
整形外科	1,217	1,213	1,247	1,427	1,212																																																																							
神経内科	880	818	870	995	752																																																																							
消化器内科	1,675	1,715	1,922	2,047	1,936																																																																							
その他	10,028	10,732	11,115	11,743	10,076																																																																							
合計	13,800	14,478	15,154	16,212	13,976																																																																							
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																																							
訪問活動（件）	17	100	20	34	48																																																																							
健康づくり講座（回）	15	20	21	17	3																																																																							
区分\年度	H30	R1	R2																																																																									
院外参加者数	68	中止	開催自粛																																																																									
院内参加者数	50																																																																											
合計	118																																																																											
04	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 ・地域医療構想を踏まえた病病連携の推進を図るため、定期的に東濃・可児地域病病連携推進会議を開催するとともに、近隣の医療機関との間で急性期医療、回復期医療の提供体制について、意見交換等を行う。 ・診療所等訪問活動チームによる診療所等への訪問活動等を通じ、診療所等との連携を深めるとともに、当院以外でも診療可能な診療科や疾患を分析し、高度急性期・急性期病院としての役割を全うするため、外来診療規模の最適化を推進する。	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 ・地域医療連携センター（前方連携・後方連携）による開業医への訪問活動を実施（48件）し、近隣病院との役割分担の明確化、連携強化を図った。また、診療科の医師も訪問に同行し紹介患者獲得に向けて活動した。 ・多治見シャトル（かかりつけ医へ患者の診療予定日をお知らせする仕組み）については、新型コロナウイルス感染拡大のなかにあっても、利用件数は大きく減少することなく前年度並みの利用があり、患者紹介率、逆紹介率としても高い水準を維持することができた。  <b>【多治見シャトル利用】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,082</td> <td>1,626</td> <td>2,043</td> <td>2,840</td> <td>2,834</td> </tr> </tbody> </table>					H28	H29	H30	R1	R2	1,082	1,626	2,043	2,840	2,834	IV	多治見シャトルはコロナ禍でも減少せず、評価すべきシステムと思われる。 合同カンファレンスについても昨年同様の実績数であり評価できる。																																																										
H28	H29	H30	R1	R2																																																																								
1,082	1,626	2,043	2,840	2,834																																																																								

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				自己 評価	評価委員会の検証（案）																																									
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携予約の強化及びかかりつけ医紹介を推進するとともに、多治見シャトル（病診連携システム）を効果的に活用し、近隣の医療機関との協力体制の充実により紹介・逆紹介を促進する。</li> </ul>	<b>【紹介患者のうち医療連携予約の割合】</b> 単位：％ <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61.2</td> <td>63.7</td> <td>67.0</td> <td>78.4</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table>	H28	H29	H30	R1	R2	61.2	63.7	67.0	78.4	82.0																																				
H28	H29	H30	R1	R2																																												
61.2	63.7	67.0	78.4	82.0																																												
4	地域の介護・福祉機関との連携強化による地域包括ケアシステムへの貢献	<b>【紹介率・逆紹介率】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率（単位：％）</td> <td>75.7</td> <td>76.2</td> <td>75.1</td> <td>73.4</td> <td>74.3</td> </tr> <tr> <td>紹介実件数（単位：件）</td> <td>22,553</td> <td>22,651</td> <td>22,632</td> <td>20,677</td> <td>17,048</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率（単位：％）</td> <td>86.2</td> <td>88.0</td> <td>89.2</td> <td>101.2</td> <td>98.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実件数（単位：件）</td> <td>17,325</td> <td>17,437</td> <td>18,246</td> <td>19,996</td> <td>16,590</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	紹介率（単位：％）	75.7	76.2	75.1	73.4	74.3	紹介実件数（単位：件）	22,553	22,651	22,632	20,677	17,048	逆紹介率（単位：％）	86.2	88.0	89.2	101.2	98.6	逆紹介実件数（単位：件）	17,325	17,437	18,246	19,996	16,590																
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																											
紹介率（単位：％）	75.7	76.2	75.1	73.4	74.3																																											
紹介実件数（単位：件）	22,553	22,651	22,632	20,677	17,048																																											
逆紹介率（単位：％）	86.2	88.0	89.2	101.2	98.6																																											
逆紹介実件数（単位：件）	17,325	17,437	18,246	19,996	16,590																																											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療相談室ミーティングの定例開催などにより、退院調整看護師と医療相談員との緊密な連携体制を維持・強化し、退院支援の充実を図る。</li> <li>・入院時・退院時にケアマネージャー等を交えたカンファレンスを開催し、患者に関する情報を共有し、地域との密接な連携に努める。</li> <li>・転院先、訪設先の訪問活動を実施し、地域の関係機関との連携強化に努める。</li> </ul>	<b>【高度医療機器利用状況】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C T</td> <td>887</td> <td>924</td> <td>892</td> <td>1,031</td> <td>856</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>580</td> <td>666</td> <td>612</td> <td>607</td> <td>601</td> </tr> <tr> <td>R I</td> <td>128</td> <td>128</td> <td>130</td> <td>158</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>P E T</td> <td>57</td> <td>58</td> <td>39</td> <td>50</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>骨密度</td> <td>63</td> <td>66</td> <td>76</td> <td>85</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,715</td> <td>1,842</td> <td>1,749</td> <td>1,931</td> <td>1,791</td> </tr> </tbody> </table>	機器名\年度	H28	H29	H30	R1	R2	C T	887	924	892	1,031	856	M R I	580	666	612	607	601	R I	128	128	130	158	194	P E T	57	58	39	50	61	骨密度	63	66	76	85	79	合 計	1,715	1,842	1,749	1,931	1,791				
機器名\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																											
C T	887	924	892	1,031	856																																											
M R I	580	666	612	607	601																																											
R I	128	128	130	158	194																																											
P E T	57	58	39	50	61																																											
骨密度	63	66	76	85	79																																											
合 計	1,715	1,842	1,749	1,931	1,791																																											
		<b>【開放型病床利用】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医科</td> <td>21</td> <td>50</td> <td>26</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>29</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医科	21	50	26	11	1	歯科	22	24	24	29	20																												
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																											
医科	21	50	26	11	1																																											
歯科	22	24	24	29	20																																											
		4 地域の介護・福祉機関との連携強化による地域包括ケアシステムへの貢献																																														
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週1回、医療相談課全体ミーティング（入退院支援担当看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師）を開催しており、退院調整看護師と相談員とは、常に情報共有をしながら、連携体制を維持・強化している。退院支援は、半数を超える入院患者に介入している。</li> <li>・ 連携病院21施設と新しく開設された訪問看護ステーション2件を訪問した。当院への要望も伺いながら可能な限り対応し、地域の関係機関との連携強化に努めている。</li> </ul>																																														



項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																														
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																				
		<b>【在宅復帰率】</b> 単位：％ <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.50</td> <td>87.3</td> <td>92.1</td> <td>91.0</td> <td>91.6</td> </tr> </tbody> </table> <b>【相談対応件数】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14,597</td> <td>15,969</td> <td>17,605</td> <td>20,450</td> <td>21,347</td> </tr> </tbody> </table> <b>【合同カンファレンスの実績】</b> 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>277</td> <td>313</td> <td>386</td> <td>465</td> <td>450</td> </tr> </tbody> </table>					H28	H29	H30	R1	R2	86.50	87.3	92.1	91.0	91.6	H28	H29	H30	R1	R2	14,597	15,969	17,605	20,450	21,347	H28	H29	H30	R1	R2	277	313	386	465	450		
H28	H29	H30	R1	R2																																		
86.50	87.3	92.1	91.0	91.6																																		
H28	H29	H30	R1	R2																																		
14,597	15,969	17,605	20,450	21,347																																		
H28	H29	H30	R1	R2																																		
277	313	386	465	450																																		
05	<b>3 がん医療</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療連携拠点病院として、質の高いがん医療を提供する体制を確保するとともに、院内がん登録数、がん相談件数等を増加させる。</li> <li>・高精度放射線治療装置「ノバリスT<sub>x</sub>」「トゥルービーム」の2台体制により、根治照射・予防照射・緩和照射等正確で症例に適した質の高い治療を提供する。</li> <li>・化学療法センターの活用により外来化学療法の増進を図る。</li> <li>・肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関として、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に引き続き協力していく。</li> <li>・がんゲノム医療連携病院として、がん診療連携センターを中心に、がんゲノム医療への積極的な参加が可能となるよう、適宜運用手順等の改善を実施する。</li> <li>・ゲノム医療に関する勉強会等を開催するなど、院内スタッフの知識の向上に努めるとともに連携体制の強化を図る。</li> </ul>	<b>3 がん医療</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度、がん相談は延べ1,218件に対応した。がん相談支援センターのPRも兼ねて、東濃地域を中心とした公立図書館にパンフレットを配布し、がん医療に関する情報を幅広く提供した。</li> <li>・高精度放射線治療装置（ノバリスT<sub>x</sub>・トゥルービーム）の2台体制により、正確で質の高い放射線治療を提供した、特徴を生かしたより先進的かつ効果的な放射線治療の提供に努めた。</li> <li>・肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関として、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に引き続き協力した。患者に対しては、事業に関する情報提供に努めている。</li> <li>・ゲノム医療に関しては、名古屋大学と連携して、検討会を毎週1回開催し、当院からは8件について発表した。また、名古屋大学との事務手続き等について、マニュアルを作成した。なお、院内でのゲノム医療に関する勉強会は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を見合わせた。</li> <li>・社会労務士による就労相談、ハローワークの相談を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大による閉鎖もあったことから、利用件数は少ないものとなった。</li> </ul> <b>【がん患者等の状況】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数（単位：人）</td> <td>2,695</td> <td>2,805</td> <td>3,060</td> <td>2,858</td> <td>2,808</td> </tr> <tr> <td>外来患者数（単位：人）</td> <td>1,675</td> <td>1,877</td> <td>1,848</td> <td>1,818</td> <td>1,923</td> </tr> </tbody> </table>	項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	入院患者数（単位：人）	2,695	2,805	3,060	2,858	2,808	外来患者数（単位：人）	1,675	1,877	1,848	1,818	1,923	IV	がん医療－放射線治療について評価できる。																
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																	
入院患者数（単位：人）	2,695	2,805	3,060	2,858	2,808																																	
外来患者数（単位：人）	1,675	1,877	1,848	1,818	1,923																																	

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																																																																		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																																								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターや行政施設等との連携により、治療と就労の両立など患者の就労支援も含めた相談支援体制の充実を図る。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>手術件数</td> <td></td> <td>1,121</td> <td>1,108</td> <td>1,066</td> <td>1,036</td> <td>945</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">化学療法件数</td> <td>入院</td> <td>1,824</td> <td>1,510</td> <td>1,433</td> <td>1,505</td> <td>1,760</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>11,403</td> <td>11,610</td> <td>11,842</td> <td>12,704</td> <td>11,176</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">放射線治療施行回数</td> <td>入院</td> <td>2,958</td> <td>2,853</td> <td>3,169</td> <td>2,950</td> <td>2,835</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>4,864</td> <td>5,185</td> <td>5,825</td> <td>6,481</td> <td>5,834</td> </tr> </table> <p>【がんパス件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>【高精度放射線治療システム（ノバリスT<sub>x</sub>・トゥルービーム）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数（単位：人）</td> <td>307</td> <td>344</td> <td>471</td> <td>462</td> <td>446</td> </tr> <tr> <td>強度変調放射線治療（IMRT）患者数（単位：人）</td> <td>273</td> <td>254</td> <td>295</td> <td>337</td> <td>392</td> </tr> <tr> <td>延べ件数（単位：件）</td> <td>5,988</td> <td>6,491</td> <td>9,413</td> <td>9,714</td> <td>9,040</td> </tr> </tbody> </table>	手術件数		1,121	1,108	1,066	1,036	945	化学療法件数	入院	1,824	1,510	1,433	1,505	1,760	外来	11,403	11,610	11,842	12,704	11,176	放射線治療施行回数	入院	2,958	2,853	3,169	2,950	2,835	外来	4,864	5,185	5,825	6,481	5,834	H28	H29	H30	R1	R2	30	12	16	6	19	項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2	患者数（単位：人）	307	344	471	462	446	強度変調放射線治療（IMRT）患者数（単位：人）	273	254	295	337	392	延べ件数（単位：件）	5,988	6,491	9,413	9,714	9,040					
手術件数		1,121	1,108	1,066	1,036	945																																																																				
化学療法件数	入院	1,824	1,510	1,433	1,505	1,760																																																																				
	外来	11,403	11,610	11,842	12,704	11,176																																																																				
放射線治療施行回数	入院	2,958	2,853	3,169	2,950	2,835																																																																				
	外来	4,864	5,185	5,825	6,481	5,834																																																																				
H28	H29	H30	R1	R2																																																																						
30	12	16	6	19																																																																						
項目\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																																					
患者数（単位：人）	307	344	471	462	446																																																																					
強度変調放射線治療（IMRT）患者数（単位：人）	273	254	295	337	392																																																																					
延べ件数（単位：件）	5,988	6,491	9,413	9,714	9,040																																																																					
07	<p>1 電子カルテ等に蓄積された各種医療データの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院のホームページ上で公開しているQ I指標については、内容を更新し、公開を継続する。また、厚生労働省の定めたDPCデータに基づく病院指標についても、当院のホームページ上で公開し、機能評価係数の確保に努める。</li> <li>・診療情報分析担当において、診療に関する情報を分析・集計し、一元的に管理することで、各診療科や部門からの要望に応じ、必要な医療情報を提供する。</li> <li>・診療報酬改定による看護必要度項目の変更に対応するとともに、引き続き看護必要度の精度向上や施設基準に関するデータ把握に努める。</li> <li>・医療連携関連データについては、地域医療連</li> </ul>	<p>1 電子カルテ等に蓄積された各種医療データの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院ホームページ上のQ I指標及び厚生労働省病院指標は、2019年度分の更新を行った。</li> <li>・診療に関する情報を分析・集計し、院内各部署からの集計依頼等に対応し、必要な情報を適時に提供した。</li> <li>・医療連携推進協議会（4回）を通じて、関係機関と医療情報の共有を図った。</li> </ul> <p>【看護必要度】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年度</th> <th>H28※</th> <th>H29</th> <th>H30※</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当院値</td> <td>27.6</td> <td>29.0</td> <td>37.8</td> <td>31.2</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>7対1施設基準</td> <td>25.0</td> <td>25.0</td> <td>30.0</td> <td>25.0</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成28年度、30年度の改定時に評価項目の大幅な変更あり（値も大きく変動）</p> <p>【診療密度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\改定年度</th> <th>H26</th> <th>H28</th> <th>H30</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当院値</td> <td>2381.11</td> <td>2416.98</td> <td>2386.25</td> <td>2674.42</td> </tr> <tr> <td>II群基準値</td> <td>2482.09</td> <td>2513.24</td> <td>2413.38</td> <td>2476.99</td> </tr> </tbody> </table>	項目\年度	H28※	H29	H30※	R1	R2	当院値	27.6	29.0	37.8	31.2	33.7	7対1施設基準	25.0	25.0	30.0	25.0	29.0	項目\改定年度	H26	H28	H30	R2	当院値	2381.11	2416.98	2386.25	2674.42	II群基準値	2482.09	2513.24	2413.38	2476.99	III	電子カルテ上のデータ活用、Q Iプロジェクトについて評価できる。																																					
項目\年度	H28※	H29	H30※	R1	R2																																																																					
当院値	27.6	29.0	37.8	31.2	33.7																																																																					
7対1施設基準	25.0	25.0	30.0	25.0	29.0																																																																					
項目\改定年度	H26	H28	H30	R2																																																																						
当院値	2381.11	2416.98	2386.25	2674.42																																																																						
II群基準値	2482.09	2513.24	2413.38	2476.99																																																																						

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																																													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																																			
	<p>携推進協議会等を通じ、医師会をはじめとする医療関係機関、行政機関と情報を共有し、医療連携の推進を図る。</p> <p>2 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会などが主導する疾患別登録事業、国や県が行うがん登録事業、日本病院会が行うQ I 事業に引き続き参加する。各事業から提供されたデータに基づいた他院とのベンチマーク比較等を行い、医療の質向上に活用する。また、各種指標を当院ホームページ上で公開する。</li> <li>・DPCデータや各種情報システム（EVE、メディカルコード、MIL）を活用し、医師、看護師等に対して診療情報の提供を進めるとともに、診療報酬委員会においてデータの分析や分析結果の検討を行い、関係診療科や関係部門と医療の質向上に努める。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>対基準値 (%)</td> <td>95.93</td> <td>96.17</td> <td>98.88</td> <td>107.8</td> </tr> </table> <p>【DPC係数】※改定年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目\年月</th> <th>H28.4※</th> <th>H29.4</th> <th>H30.4※</th> <th>H31.4</th> <th>R2.4※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎係数</td> <td>1.0296</td> <td>1.0296</td> <td>1.0314</td> <td>1.0314</td> <td>1.0708</td> </tr> <tr> <td>暫定調整係数</td> <td>0.0224</td> <td>0.0224</td> <td>0.0000</td> <td>0.0000</td> <td>0.0000</td> </tr> <tr> <td>機能評価係数II</td> <td>0.0758</td> <td>0.0762</td> <td>0.1295</td> <td>0.1275</td> <td>0.1005</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本病院会「Q Iプロジェクト」、京都大学Q I P事業に参加した。Q Iデータについて分析をするとともに、年報やホームページ上で公開した。また、その分析結果を医療の質向上委員会で報告、検討し、PDCAサイクルに基づいた医療の質向上に努めた。</li> <li>・国や県の行うがん登録事業に継続参加した。</li> <li>・DPCデータや診療情報システム（EVE・メディカルコード・MIL）を活用し、医師や各部門へデータ提供を行い、診療報酬委員会へ分析結果等の提供を行った。</li> </ul> <p>【Q I指標項目数】 単位：個</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>43</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>【がん登録件数】 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,799</td> <td>1,661</td> <td>1,978</td> <td>1,453</td> </tr> </tbody> </table>	対基準値 (%)	95.93	96.17	98.88	107.8	項目\年月	H28.4※	H29.4	H30.4※	H31.4	R2.4※	基礎係数	1.0296	1.0296	1.0314	1.0314	1.0708	暫定調整係数	0.0224	0.0224	0.0000	0.0000	0.0000	機能評価係数II	0.0758	0.0762	0.1295	0.1275	0.1005	H28	H29	H30	R1	R2	43	43	40	40	40	H29	H30	R1	R2	1,799	1,661	1,978	1,453				
対基準値 (%)	95.93	96.17	98.88	107.8																																																	
項目\年月	H28.4※	H29.4	H30.4※	H31.4	R2.4※																																																
基礎係数	1.0296	1.0296	1.0314	1.0314	1.0708																																																
暫定調整係数	0.0224	0.0224	0.0000	0.0000	0.0000																																																
機能評価係数II	0.0758	0.0762	0.1295	0.1275	0.1005																																																
H28	H29	H30	R1	R2																																																	
43	43	40	40	40																																																	
H29	H30	R1	R2																																																		
1,799	1,661	1,978	1,453																																																		
08	<p>1 質の高い臨床研修医の養成等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医が充実した研修期間を送れるよう、臨床研修病院として必要に応じて研修プログラム等の充実を図る。</li> <li>・研修医のニーズを踏まえた「症例検討会」「各診療科部長による講義」や「早朝講義」などを定期的に開催する。</li> <li>・岐阜県医師育成・確保コンソーシアムとの連</li> </ul>	<p>1 質の高い臨床研修医の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県医師確保育成コンソーシアムの補助金を活用し、外部講師による勉強会として、総合診療教育カンファレンスを開催した。（計9回実施）</li> <li>・研修医を対象とした内科症例検討会（11回）、各診療科部長による実践的な講義（毎月2診療科）、早朝勉強会（月1回）を開催した。</li> </ul> <p>【医師の研修派遣実績人数】 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2							III	初期臨床研修医数も順次増えてきており、引き続き確保に努力されたい。																																					
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																																

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					自己 評価	評価委員会の検証（案）																														
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																				
	携によって、研修医の確保と資質向上を図る。	派遣	424	409	510	455	182																															
		<b>【職員を対象とした外部講師開催実績】</b> 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>講演会等名</th> <th>講師</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">新型コロナウイルス感染拡大のため開催見送り</td> </tr> </tbody> </table>					開催日	講演会等名	講師	参加者	新型コロナウイルス感染拡大のため開催見送り																											
開催日	講演会等名	講師	参加者																																			
新型コロナウイルス感染拡大のため開催見送り																																						
		<b>【研修医を対象とした外部講師開催実績】</b> 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>講演会等名</th> <th>回数</th> <th>講師</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合診療教育カンファレンス</td> <td>9回</td> <td>名古屋大学医学部附属病院 総合診療科 松久 貴晴 先生</td> <td>延べ141人</td> </tr> <tr> <td>総合内科診療教育研修</td> <td>11回</td> <td>名古屋通信病院 院長 三島 信彦 先生</td> <td>延べ58人</td> </tr> </tbody> </table>					講演会等名	回数	講師	参加者	総合診療教育カンファレンス	9回	名古屋大学医学部附属病院 総合診療科 松久 貴晴 先生	延べ141人	総合内科診療教育研修	11回	名古屋通信病院 院長 三島 信彦 先生	延べ58人																				
講演会等名	回数	講師	参加者																																			
総合診療教育カンファレンス	9回	名古屋大学医学部附属病院 総合診療科 松久 貴晴 先生	延べ141人																																			
総合内科診療教育研修	11回	名古屋通信病院 院長 三島 信彦 先生	延べ58人																																			
		<b>【初期臨床研修医数】</b> 単位：人（各年度末時点） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>					区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医師	21	21	23	23	26	歯科医師	2	2	2	2	2														
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																	
医師	21	21	23	23	26																																	
歯科医師	2	2	2	2	2																																	
09	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学生、看護学生、コメディカルを目指す学生に対する講義や実習については、今後も積極的に受け入れる。</li> <li>・特に、看護学生については、引き続き専門学校や看護大学の学生の実習を積極的に受け入れるとともに、インターンシップ制度について広報し、多くの看護学生を受け入れ、採用に繋げる。</li> </ul>	<p>1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学生については、名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学など関連大学から、感染対策しながら積極的に受け入れ実習を行った。また、看護学生やコメディカルも同様に大学や専門学校からの実習を積極的に受け入れた。</li> </ul>					III	<p>コロナ禍において、実習生の受入れについて減少しているものの、看護学生については、昨年同様の受入れのため評価できる。</p>																														
		<b>【学生の実習受入れ状況】</b> 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学生</td> <td>16</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>52</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>看護学生</td> <td>380</td> <td>458</td> <td>505</td> <td>481</td> <td>426</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>69</td> <td>63</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>453</td> <td>539</td> <td>615</td> <td>596</td> <td>511</td> </tr> </tbody> </table>					区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医学生	16	22	41	52	18	看護学生	380	458	505	481	426	コメディカル	57	59	69	63	67	合計	453	539	615	596	511		
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																																	
医学生	16	22	41	52	18																																	
看護学生	380	458	505	481	426																																	
コメディカル	57	59	69	63	67																																	
合計	453	539	615	596	511																																	
		<b>【医学生の見学受入れ状況】</b> 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>67</td> <td>92</td> <td>108</td> <td>64</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>					H28	H29	H30	R1	R2	67	92	108	64	30																						
H28	H29	H30	R1	R2																																		
67	92	108	64	30																																		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体、医師会等の社会的な要請に応じ、医療に関する鑑定・調査及び講師派遣を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 社会的な要請への協力</li> <li>・自治体の要請に応じ、新型コロナウイルス感染症患者宿泊療養施設へ看護師を派遣</li> </ul>					IV	<p>コロナ患者宿泊施設、大阪コロナ重症センターへの職員派</p>																														

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）																													
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>																																
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、自治体等で開催される各種イベントでの救急患者対応等の協力を行う。</li> <li>・医療系専門学校、大学、企業、地域や介護老人福祉施設などの要請に応じ、講師の派遣などを行う。</li> <li>・地域の中学生、高校生の職場体験実習に協力する。</li> </ul>	<p>し保健医療班業務を実施した（延46人）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院看護師が、大阪コロナ重症センターにおいて、新型コロナウイルス感染重症者への看護に従事し、当院としても派遣看護師に対する支援を行った（1人・1ヶ月）。</li> <li>・医療系専門学校、大学、企業、地域、近隣の病院や施設等の要請に応じ、医師、認定看護師や専門看護師、コメディカルを講師として派遣した。</li> </ul> <p>【講師等派遣の状況】 <span style="float:right">単位：人</span></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>188</td> <td>222</td> <td>179</td> <td>201</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>33</td> <td>64</td> <td>55</td> <td>29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>18</td> <td>32</td> <td>46</td> <td>65</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>239</td> <td>318</td> <td>280</td> <td>295</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	医師	188	222	179	201	106	看護師	33	64	55	29	40	コメディカル	18	32	46	65	22	合計	239	318	280	295	168		遣について評価できる。
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																													
医師	188	222	179	201	106																													
看護師	33	64	55	29	40																													
コメディカル	18	32	46	65	22																													
合計	239	318	280	295	168																													
13	<p>1 医療救護活動の拠点機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間対応可能な救急医療体制を維持し、災害発生時の救急・重篤患者を受け入れる。</li> <li>・また、東濃地域の唯一結核指定医療機関及び感染症指定医療機関として、対象患者を受け入れる体制を維持する。</li> <li>・当院が担う病院機能を維持するため、必要な施設設備の修繕、改修等維持管理に努める。また、より効果的な災害実動訓練、消防訓練を実施して有事対応能力の向上を図る。</li> <li>・新電子カルテシステムの機能である「トリアージシステム」の活用を検討する。</li> </ul> <p>2 災害拠点病院としての機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時に診療継続可能な機能（強固なインフラ整備、浸水防止機能、防災ヘリポート等）を備えた新中央診療棟の建設工事を発注する。</li> <li>・災害時の断水に備え、飲用水を供給できる井水浄化プラントを整備する。</li> </ul>	<p>1 医療救護活動の拠点機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急医療体制、災害医療体制、感染症患者受入態勢を維持するため、必要な施設設備の維持管理を行った。特に新型コロナウイルス感染拡大に対応して、必要な検査機器の整備、診察室の改修、空気清浄機の設置などを行った。</li> <li>・災害実動訓練は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、図上訓練とした。消防訓練については実施し、有事対応の機能を検証した。</li> <li>・新電子カルテシステムの「トリアージシステム」が稼働しており、救急救命センター（救急外来）で活用している。</li> </ul> <p>【災害訓練の実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害実動訓練</td> <td>R3. 1. 15</td> <td>災害対策本部の総合調整機能を強化すべく、本部員および関係事務部門にて二次元展開法による被害への対応の優先順位決定訓練（図上）を実施した。</td> </tr> <tr> <td>消防訓練</td> <td>R3. 3. 23</td> <td>令和2年度新設の西立駐を火元と想定し、初動対応を行う職員にて現場への急行手順、消火器具の設置場所等を確認した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 災害拠点病院としての機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新中央診療棟の建設において、災害時、特に水害時に備え、地上に設置予定だったガスコジェネレーションシステム（ガスによる自家発電装置）を屋上階に設置するよう変</li> </ul>		開催日	備考	災害実動訓練	R3. 1. 15	災害対策本部の総合調整機能を強化すべく、本部員および関係事務部門にて二次元展開法による被害への対応の優先順位決定訓練（図上）を実施した。	消防訓練	R3. 3. 23	令和2年度新設の西立駐を火元と想定し、初動対応を行う職員にて現場への急行手順、消火器具の設置場所等を確認した。	IV	コロナ対応、ガスコジェネレーションの屋上階設置について評価できる。																					
	開催日	備考																																
災害実動訓練	R3. 1. 15	災害対策本部の総合調整機能を強化すべく、本部員および関係事務部門にて二次元展開法による被害への対応の優先順位決定訓練（図上）を実施した。																																
消防訓練	R3. 3. 23	令和2年度新設の西立駐を火元と想定し、初動対応を行う職員にて現場への急行手順、消火器具の設置場所等を確認した。																																

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>	自己 評価	
		<p>更し、防災機能を強化した設計内容へ見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 井水浄化プラントのプロポーザルを実施し、仕様および業者を決定した。また、建設に向けて、井戸の掘削場所等の検討、関係機関との協議を進めた。</li> </ul>		
15	<p>1 診療継続計画の継続的な見直し及び訓練等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務継続計画（BCP）については、部署毎の実態に即した小規模な訓練や研修を適宜実施し、院内における役割の認識や災害意識の底上げを図るとともに、適宜必要な見直しを行っていく。また、こうした研修や意識向上をベースに、災害実動訓練がより効果的なものとなるよう取り組んでいく。</li> </ul> <p>2 診療情報のバックアップシステムの適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。また、データのリアルタイムでアップデートする仕組みの運用検討を進める。</li> </ul>	<p>1 診療継続計画の作成及び訓練等による体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生時のマニュアル類をBCPに基づいた内容に更新し、準備態勢の充実を図った。</li> </ul> <p>2 診療情報のバックアップシステムの適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療情報は、遠隔地でバックアップし、非常時に活用できる体制を維持した。また、SS-MIXの情報を、院内のネットワークがダウンした場合であっても閲覧できるよう各病棟に専用端末を設置した。</li> </ul>	IV	<p>診療情報のバックアップシステムは災害時において極めて重要であり、BCPに基づいて取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>遠隔地へのバックアップ、ローカルSS-MIXストレージ（オフラインPC）について評価できる。</p>
16	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型インフルエンザ等発生時における業務計画に沿った新型インフルエンザ等対策について、職員への周知と、必要な物資及び資材の備蓄等の整備を計画的に実施する。</li> </ul>	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19対策チームを結成し、対応マニュアル作成や必要な物資、資材の備蓄等を実施した。また、電子カルテの表示、メール等を活用しながら職員へ周知および体制を整備した。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染防止対策のためのラウンドを実施するとともに、定期的に職員向け「ストップ！コロナ通信」を発行し、感染防止の意識を高めている。</li> </ul>	IV	<p>コロナ対応について評価できる。</p>
17	<p>1 組織体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療環境の変化や医療需要に的確に対応できるよう弾力的な診療体制づくりを進めるとともに、効率性・透明性の高い業務運営に努め、当院が有する各種機能が効果的に働く組織体制の充実を図る。</li> </ul> <p>3 ICT（情報通信技術）の活用等による経</p>	<p>1 組織体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の医療需要に対応し10月に児童精神科外来を開設。診察実績は延べ75件となった。</li> <li>・ 医療機器の整備を新中央診療棟整備も見据えて計画的、効率的に実施するため医療機器整備室を設置するとともに、医療機器整備調整監を配置した。</li> </ul>	IV	<p>ICT活用が順調に進んでおり、引き続き努力されたい。</p> <p>児童精神科外来の開設、医療機器整備室の設置、医療機器整備調整監の配置について評価できる。</p>

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証（案）																										
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>	自己 評価																											
	<p>営効率の高い業務執行体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床頭台に付随した医療看護用ピクトグラムモニター（タブレット端末）の測定したバイタルデータが自動的に電子カルテに入力される機能や、患者さんのもとでその患者情報等を確認できる機能により、看護業務の効率化を図る。</li> <li>・画像診断等でのA Iの活用に向けて、診療科等と共同して情報収集を行う等の検討を進める。また、A I問診システムを試行的に導入し、待ち時間の軽減や医師による診察時間の改善等を目指す。</li> </ul>	<p>3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床頭台に付随した医療看護用ピクトグラムモニター（タブレット端末）システムが稼働し、看護業務に活用されている。</li> <li>・A I画像診断の導入については、経費面に加え、異常があった場合の通知方法など電子カルテシステムやPACSとの連携についても、課題が明らかとなったため、さらに検討していく必要がある。また、A I問診システムについては、導入に向けた環境を整備した。</li> <li>・Web会議システムを、入退院支援、様々な連携会議、各種学会、委託業者や地域調剤薬局との会議等の他、院内の会議、委員会、病棟会等で広く活用し、効率的な業務運営を行った。</li> </ul>																												
26	<p>「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を効果的に進めるなどして、経常収支比率100%以上及び職員給与費対医業収益比率を50%以下とすることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医業収益の減、給与費の増により、経常収支比率97.1%となった。職員給与費対医業収益比率は目標の50%以下を上回ったため、業務の効率化や医業収益の更なる増収を目指していく。</li> </ul> <p>【経常収支比率・職員給与費対医業収益比率】 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分\年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支</td> <td>100.7</td> <td>102.0</td> <td>100.2</td> <td>95.5</td> <td>97.1</td> </tr> <tr> <td>職員給与費</td> <td>51.7</td> <td>51.0</td> <td>52.5</td> <td>54.4</td> <td>58.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2	経常収支	100.7	102.0	100.2	95.5	97.1	職員給与費	51.7	51.0	52.5	54.4	58.0	II	<p>コロナ禍でやむを得ない結果かと思われるが、今後の改善に期待したい。</p>								
区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2																									
経常収支	100.7	102.0	100.2	95.5	97.1																									
職員給与費	51.7	51.0	52.5	54.4	58.0																									
	1 予算	<p>1 決算 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  営業収益</td> <td>21,303</td> </tr> <tr> <td>    医業収益</td> <td>18,729</td> </tr> <tr> <td>    運営費負担金収益</td> <td>1,182</td> </tr> <tr> <td>    その他営業収益</td> <td>1,391</td> </tr> <tr> <td>  営業外収益</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>    運営費負担金収益</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>    その他営業外収益</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>資本収入</td> <td>727</td> </tr> <tr> <td>  長期借入金</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>  運営費負担金</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>  その他資本収入</td> <td>228</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	金 額	収入		営業収益	21,303	医業収益	18,729	運営費負担金収益	1,182	その他営業収益	1,391	営業外収益	80	運営費負担金収益	13	その他営業外収益	67	資本収入	727	長期借入金	199	運営費負担金	300	その他資本収入	228		
区 分	金 額																													
収入																														
営業収益	21,303																													
医業収益	18,729																													
運営費負担金収益	1,182																													
その他営業収益	1,391																													
営業外収益	80																													
運営費負担金収益	13																													
その他営業外収益	67																													
資本収入	727																													
長期借入金	199																													
運営費負担金	300																													
その他資本収入	228																													

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証 (案)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点 (●)</li> </ul>			

その他の収入	54
計	22,164
支出	
営業費用	18,469
医業費用	17,775
給与費	9,181
材料費	5,502
経費	3,057
研究研修費	35
一般管理費	694
給与費	468
経費	226
営業外費用	81
資本支出	1,412
建設改良費	810
償還金	548
その他資本支出	54
その他の支出	53
計	20,015

(注記 略)

2 収支計画

2 収支計画に対する実績

(単位：百万円)

区 分	金 額
収益の部	19,690
営業収益	19,522
医業収益	16,955
運営費負担金収益	1,171
資産見返負債戻入	6
その他営業収益	1,390
営業外収益	84
運営費負担金収益	22
その他営業外収益	62
臨時利益	84
費用の部	20,248
営業費用	19,227
医業費用	18,571
給与費	9,359
材料費	5,008



項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		自己 評価	評価委員会の検証（案）		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>					
3 資金計画		経費	2,817				
		減価償却費	1,356				
		研究研修費	31				
		一般管理費	656				
		給与費	475				
		減価償却費	31				
		経費	150				
		営業外費用	968				
		臨時損失	53				
		予備費	0				
		純損失	▲558				
		目的積立金取崩額	0				
		総損失	▲558				
		(注記 略)					
		3 資金計画に対する実績		(単位：百万円)			
				区 分	金 額		
				資金収入	29,852		
				業務活動による収入	19,553		
				診療業務による収入	16,833		
				運営費負担金による収入	1,195		
				その他の業務活動による収入	1,525		
				投資活動による収入	99		
				運営費負担金による収入	20		
		その他の投資活動による収入	79				
		財務活動による収入	479				
		長期借入による収入	199				
		その他の財務活動による収入	280				
		前事業年度からの繰越金	9,721				
		資金支出	29,852				
		業務活動による支出	18,821				
		給与費支出	7,844				
		材料費支出	5,402				
		その他の業務活動による支出	5,575				
		投資活動による支出	929				
		有形固定資産の取得による支出	908				
		その他の投資活動による支出	21				
		財務活動による支出	548				
		長期借入金の返済による支出	361				

項目 No.	R 2年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				自己 評価	評価委員会の検証（案）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進捗した取組</li> <li>・その他の主な取組</li> <li>・今後の課題・問題点（●）</li> </ul>					
			移行前地方債償還債務の償還による支出	167			
			その他財務活動による支出	20			
			翌事業年度への繰越金	9,554			
		(注記 略)					
29	<p>1 新中央診療棟などの施設の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新中央診療棟整備第一期工事について、先進事例や市況の動向を踏まえて発注し、契約を締結する。あわせて既存棟（東病棟）の一部先行改修工事を施工する。</li> <li>・関連事業である立体駐車場の整備では、西側立体駐車場の完成、東側立体駐車場の早期着工を目指す。また病院前市道の拡幅整備を段階的に進め、新中央診療棟開設時の完成を目指す。</li> </ul> <p>2 医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器等の整備については、新棟整備計画に向けた医療機器等整備方針（2019年6月策定）及び整備スケジュールに則り、過剰な施設整備とならないよう「緊急度・移設性・収益性」などを総合的に勘案し整備を進める。</li> </ul>	<p>1 新中央診療棟などの施設の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度内に予定していた新中央診療棟整備第一期工事の発注手続きは、新型コロナウイルス感染拡大による経営状況等への影響を見極めるため、一時延期とし、設計の一部見直しに着手した。関連する既存棟（東病棟）の一部先行工事については発注した。</li> <li>・8月25日に西側立体駐車場の完成・引き渡しを受け、同月28日から供用を開始した。翌9月から東側立体駐車場の工事に着工した。令和3年5月末の完成・引き渡しの見込み。</li> <li>・病院前市道については、新中央診療棟開院までに段階的に整備する。令和2年度は病院前信号交差点から約80mの区間に歩道を設置する計画としていたが、隣接地で施工中の東側立体駐車場建設工事に影響が出るため、施工時期を次年度へ繰り越した。</li> </ul> <p>2 医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新中央診療棟整備に伴い必要となる医療機器について、院内の各部門とヒアリングを実施し、購入計画、資金計画を策定した。</li> <li>・過剰な整備とならないよう、臨床工学技士と連携し、機器整備の必要性・妥当性を確認したうえで購入機器を決定するとともに、複数診療科による医療機器の共同利用を推進することで、現有機器の有効活用を図った。</li> <li>・新型コロナ緊急支援交付金を活用し必要な医療機器整備を行った。</li> </ul>	IV	新中央診療棟整備は一大事業であり、引き続き着実に遂行していただきたい。			
		(単位：百万円)					
		区分\年度	H28	H29	H30	R1	R2
		医療機器等整備	246	177	183	260	562
		施設等整備	370	38	306	115	101
		合計	616	215	489	375	663